

51. 高知大学医学部附属病院における WHO 手術安全チェックリストの有効性

谷脇実紀¹⁾, 谷めぐみ¹⁾, 田中忍¹⁾, 青野愛里²⁾, 緒方紀美代¹⁾, 井守聡子³⁾,
森川彰大³⁾, 脇彩也香³⁾, 河野崇³⁾, 横山正尚³⁾, 坂本美和⁴⁾

¹⁾高知大学医学部附属病院手術部, ²⁾看護部, ³⁾麻酔科, ⁴⁾医療安全管理部

1. 背景: WHO 手術安全チェックリスト(CL)の導入は, 手術の予後 (合併症・死亡率) を改善することが多施設試験で示されている (N Engl J Med; 2009)。CL は, 手術室での手順とコミュニケーションの両方をチェックすることを特徴とし, CL 導入により手術室の安全風土が向上することも報告されている (BMJ Qual Saf; 2011)。一方, わが国では, CL の導入率が低く, その要因の一つとして, わが国での有効性が明らかではない点が挙げられる。

2. 方法: WHO の推奨する手順に従い 2012 年 9 月に高知大学医学部附属病院における全手術症例に CL を導入した。手術室の安全・コミュニケーションは, 質問票を用いた安全尺度である Safety Attitudes Questionnaire (SAQ, Anesthesiology; 2006) を用いて評価し, CL 導入の有効性の指標とした。

SAQ は, CL 導入直前と導入 3 ヶ月後において, 手術室に

従事するスタッフ (外科医, 麻酔科医, 看護師, 臨床工学技士) を対象として実施した。SAQ の信頼度は Cronbach α 値を求めることにより判定した。また, CL 導入前後 6 ヶ月間のインシデント報告数の変化についても検討した。統計解析は, カイ二乗検定を行い, $p < 0.05$ を有意差ありと判定した。

3. 結果: CL 入後 6 ヶ月間の CL 遵守率は 92.6%であった。SAQ の回収率は, CL 導入前は 86.8% (n= 177) で, 導入後は 79.4% (n= 162) であった。CL の導入前と比較して導入後に SAQ のすべての項目でスコアが増加した。総合スコアは, CL 導入前 (3.39) と比較して導入後 (3.57) で有意に増加した。SAQ の Cronbach α 値は, 0.749 と十分な信頼性が確認できた。SAQ のインシデントの報告数は, 導入前が 45 件であったのに対して導入後では 36 件であった。

4. 結語: CL の導入により, 手術室のチームワーク・安全風土の指標である SAQ スコアが有意に増加した。今回の SAQ 増加の程度は, 過去に報告された他の国々と同程度であり, わが国においても, CL の導入により手術の予後の改善が期待できる可能性が示唆された。